

福島県における周産期医療の現状について

研究協力者

佐藤 章

(福島県立医科大学産婦人科)

目 的

母子衛生研究会発行の「母子衛生の主たる統計」によると、福島県の周産期死亡率は昭和58年が10.2（出産1,000対）、59年が10.1であった。全国平均はそれぞれ9.3、8.7で、福島県の都道府県別順位は34位、41位と下位に位置している。

我々は福島県の周産期死亡率が高い原因を解明すべく調査をすすめているが、今回は周産期に係わりを持つ医療体制の面から検討したのでその成績を報告する。

方 法

分娩総数・出生総数・出生場所別出生数・産婦人科医師総数・就業助産婦数を調べ、福島県の場合と周産期死亡率が全国平均とほぼ等しい宮城県とを比較した。

成 績

① 福島県・宮城県そして全国平均の周産期死亡率（出産1,000対）は以下の通りである。

昭和58年	福島県	10.2	（全国 34位）
	宮城県	9.4	（同 23位）
	全国平均	9.3	
昭和59年	福島県	10.1	（同 41位）
	宮城県	9.0	（同 29位）
	全国平均	8.7	

② 周産期に関わる医療体制の調査成績を次下に示す。

	福島県（昭和59年）	宮城県（昭和58年）
(1) 分娩総数		
産婦人科医師数	143.4	113.3
(2) 出生総数		
産婦人科医師数	136.4	107.5
(3) 出生総数		
助産婦数	57.9	49.6
(4) 施設（病院・診療所）		
分娩（出生）の割合	95.9 %	99.1 %

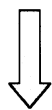
(5) 助産院・母子センター		
自宅・その他での分娩（出生）の割合	4.1 %	0.9 %
(6) 出生総数		
NICUベット数	731.1	1,499.1

考 察

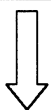
産科医師および助産婦1人あたりの分娩数は宮城県に比べ福島県は明らかに多く、産科医師・助産婦の不足はあきらかである。また病院、診療所以外での分娩の割合は福島県の場合4.1%で宮城県の0.9%にくらべ極めて多い。福島県内の各地基幹病院の平均周産期死亡率は12.5（昭和60年）で医療施設、スタッフが整備されている割には高率であるが、その詳細をみると、それまで妊婦管理の不十分な状態から妊娠末期に急に転送されるケースの多いことがわかる。

福島県の周産期死亡率は昭和58年、59年とも全国平均を大きく上まわり、都道府県別順位でも下位に低迷しているが、死亡率低下をはかるためには医療体制の整備と充実が急務と思われる。

今後は、母体搬送および新生児搬送の実態について報告する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

母子衛生研究会発行の「母子衛生の主たる統計」によると、福島県の周産期死亡率は昭和58年が10.2(出産1,000対)、59年が10.1であった。全国平均はそれぞれ9.3、8.7で、福島県の都道府県別順位は34位、41位と下位に位置している。

我々は福島県の周産期死亡率が高い原因を解明すべく調査をすすめているが、今回は周産期に係わりを持つ医療体制の面から検討したのでその成績を報告する。